岩手県立福岡高等学校　平成２４年度　E-DASH PLAN 研究開発構想図

参考資料１

校是　質実剛健・文武両道

教育目標　知・徳・体の調和のとれた人間の育成

目指す生徒像

◎「**質実剛健な英語力**」を有する生徒

- ○基礎基本を重んじ、英語で伝えられた情報を誠実にかつ適切に理解し処理しようとする生徒
- ○明確な自分の考え持ち、それを英語で的確に表現できる生徒
- ○自ら課題を見つけ、高い問題意識を持って取り組むことのできる自律した学習者たる生徒
- ○クリティカル（分析的）なインプット、ロジカルなアウトプットに必要なスキルを有する生徒

学びの３領域

バランスのとれた英語教育実践

知　Cognitive Domain
（認知的領域）
言語文化の知識・理解を含む思考力・判断力

徳　Affective Domain
（情意的領域）
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度

体　Psychomotor Domain
（神経運動的領域）
理解したり表現したりする４技能のスキル

目指す英語の授業

質実剛健な英語授業
教室：「開かれた世界」学びの共同体
「金魚鉢」→「大海」への入口

- 質：　**良質**なインプットを充分に保障する授業　アウトプットの**質**を高める機会が設けられている授業
- 実：　**実践**的コミュニケーション活動を通じて、多様な進路目標に対応できる**実戦**力を育成する授業
- 剛：　心・技・体ともにバランス良く**逞**しく、**骨太の**コミュニケーション能力を育む授業
- 健：　**健全**な世界観と広い視野を育み、国際理解を深める授業

研究開発課題

４技能統合型の授業をとおして英語の基礎・基本の確実な定着と運用能力の育成を図る効果的な指導法の研究

共通到達目標

卒業時までに生徒 70％以上が英検準２級相当以上の英語力を身につける

TEAM HUKUOKA＝**言語観・到達目標・指導法・ハンドアウト・評価方法を共有し、生徒のために英語を使うことができる自律した実践的教師集団**

研究内容

授業の改善－(1)
４技能を統合しながら英語の基礎・基本の効果的な定着を図る活動の工夫
- ①プロダクションにつながる土台作りとしての音読
- ②アウトプットに導く語彙指導（一語一会にならない工夫）
- ③コミュニケーションを支える文法指導の工夫
- ④**授業と連動した課題提示**と feedback

（英語科全員での取り組み）

授業の改善－(2)
生徒の言語使用場面の拡大を図り、インプットおよびアウトプットを効果的に増量する活動の工夫
- ①英語による授業の実践
  (生徒・教師ともに英語使用率７０％以上 “DASH 70”)
- ②タスクを効果的に組み合わせた授業の工夫
- ③授業内での多様なアウトプット活動の実践

本校生徒に即した到達目標と評価規準の明確化
- ①大学入試問題の分析＝傾向や難易度の的確な掌握
- ②HUKUOKA CAN-DO GRADE の開発
- ③シラバス研究と評価規準の明確化

生徒の実態把握
- ①入学時の学力把握　基礎力確認調査のデータ活用
- ②英語学習に関する情意面の調査
- ③スタディーサポート等のデータの有効活用

研究評価方法

- ・観察評価
- ・生徒による自己評価
- ・教員相互による授業研究と評価

（授業研究会を伴う研究授業の実施率：70％以上）

- ・生徒の取組の観察およびワークシート内容の評価・生徒のパフォーマンス評価（自己・相互・教師による評価）
- ・外部指標のスコア
  GTEC 目標スコア：１年 380　２年 430　３年 450

- ・HUKUOKA CAN-DO GRADE と外部の評価指標との整合性の検証
- ・大学の第二言語習得研究者による評価と指導

- ・基礎力確認調査の正答率（＝　**目標７５％**）
- ・生徒の英語学習に関する意識調査
- ・**「授業がわかる」生徒＝７５％**

方策

- **訳読中心の授業からの脱却＝「和訳で完結しない授業作り」**
- **授業時間内でのインプット・プラクティス・プロダクションの増量**
- **生徒の英語力を個々に測る福岡高校独自の評価尺度の設定**
- **到達目標・授業実践・評価の一体化整合性の検証**
- **小中学校との連携（小中高連携）**
- **意識調査の実施とデータの活用**

従来の英語教育の課題

英語の授業に関する現状と課題
＝教室：「閉ざされた世界」「金魚鉢」
- ①　予習中心：和訳の答え合わせの授業
- ②　文法・訳読式授業：徹底した問題演習型の授業
- ③　説明中心：教師の発言が全体の９０％以上

＝インプット・アウトプット活動の絶対量が不足
（インプット・インテイク・アウトプットが一体化した言語使用場面が少ない。）

英語の指導体制に関する現状と課題
- ①　教師・生徒が共有する到達目標が明示されていない。
  ＝シラバスは個々の科目別年間授業進度表である。３カ年を見通した到達目標を明文化したものがない。科目間の連携はない。
- ②　評価機会が定期考査。
  ＝共通した評価規準がない。

生徒に関する現状と課題
- ①　英語に対する苦手意識が強く、自己評価が非常に低い。
  ＝中学校で、すでに英語を不得意とする生徒が多い。
- ②　コミュニケーション重視の授業は大学受験対策につながらないという意識が強い。